

1978年さいたま市生まれ、中央大学法学部法律学科卒。
2008年にIT関連企業として株式会社コミュニティコムを設立。
2012年から大宮駅東口に「コワーキングスペース7F(ナナエフ)」、
2020年からシェアキッチン「CLOCK KITCHEN」の運営事業を始める。
現在はシェアオフィス6F(ロクエフ)・貸会議室6F・
インターネット動画配信スタジオ「Chimeo」などを含め計7店舗を
大宮に構える。大宮経済新聞・浦和経済新聞の編集長。



OMIYA
PEOPLE
No.005

星野邦敏 | 株式会社コミュニティコム代表取締役

創業支援から地域を盛り上げる—— 掛け合わせのオンリーワンプレイヤー

「UDCO PAPER——ひとを紡ぐ」#009では、大宮駅東口に「コワーキングスペース7F」やシェアキッチン「CLOCK KITCHEN」を運営する星野邦敏さんに、埼玉や大宮ならではの創業支援や地域活性的取り組みについて伺いました。 [聞き手:内田奈芳美(UDCO副センター長)]

大宮でシェアをデザインする

内田 コワーキングスペースを大宮に構えた経緯をお聞かせください。

星野 僕は2008年から東京でIT企業を経営していましたが、オフィスの移転をきっかけに、コワーキングスペースの運営を考え始めました。立地の候補として、大宮の他に池袋と柏を考えていましたが、いずれ地元のさいたま市に戻りたいと思っていたし、大宮は若い人がまちづくりで活躍している印象があ

りました。駅東口の再開発も控えているので、おもしろい地域になりつつあるなと考え、2012年に大宮駅東口に「コワーキングスペース7F(ナナエフ)」を立ち上げました。コワーキングスペースもシェアキッチンも県内では新しい事例です。これから主流になるであろう取り組みを、一足早いタイミングで埼玉県内で始めれば、街のおもしろい人が自然と集まる場所になるのではないかと考えたのです。ターゲットはインターネットを使い慣れている20-40代の感度の高い人です。さいたま市は人口130万人の都市で、旧大宮市だけでも60万人もいますから、そのうちの1%の人にさえ刺さればいい。働き方改革やコロナの状況も手伝って、コワーキングスペース事業は全国的に盛り上がっていますが、

先行者利益と言いますか、8年前に大宮で始められたことの意味は大きいと思います。

内田 星野さんは2020年4月からシェアキッチンの運営も始めています。

星野 もともと大宮でシェアキッチンを開くつもりはありませんでした。きっかけは、コワーキングスペースの講演のために、さまざまな地域を見て回ったことです。ワークスペースのある地域には、まず衣食住の環境が必要ですよ。人口が減少したとしても、食の需要がなくなることはない。だから、もし大宮に空いてしまう物件があったら、その場所でシェアキッチンをやったらいい。そんなことを大宮東口商店街連絡協議会の会長さんと話していました。そんな折に、銀座通り商店街にあるたばこ屋さんが閉まるという話を聞きました。長年、ビルのオーナーがご自身でやっていた1階のたばこ屋さんです。ご高齢のため店を閉じることになったのですが、この2坪の場所はきっと誰にも使われないだろうと、売りにも貸しにも出ていない状況でした。商店街のシャッターが閉まるのは人がなくなったからではなく、少しずつシャッターが閉まるから人通りがなくなるんです。賑わいを失った銀座通り商店街は見たくない。だから、いったん僕らの信用でその物件を借りて、若い人がお店を開けるシェアキッチンをやろうと始めたのです。



1%の人に
刺さればいい



たばこ屋を改修した「CLOCK KITCHEN」1店舗目

大宮で「始める」ことの課題と魅力

内田 始めてからの反響はどれくらいありましたか？

星野 いま問い合わせが本当に多いです。普通に飲食店の店舗を構えようとしたら、初期投資に1千万円くらい掛かります。家賃など毎月の固定費も心配になりますし、もし途中でやめたいと思っても、原状回復に数百万円が必要です。でも、シェアキッチンなら気軽に始められます。金銭的な計画も立てやすいですし、週3日くらいの営業だったら家族も応援してくれるでしょう。ただし、シェアキッチンは店舗としての視認性がないので、情報を自分で発信していくことが重要です。SNSやネットショップなど、僕のITの知識や経験を活かしてアドバイスすることができます。

内田 大宮は賃料も高く競争相手が多いので、店舗運営のハードルが高いように思います。だからこそ、飲食店の第一歩をシェアキッチンで始める意味がありますね。

星野 そうですね。コワーキングスペースとシェアキッチンは創業支援と地域活性化を目的としています。飲食店をやりたい人って、けっこう多いんですよ。コロナ禍のなかで副業したい人、サラリーマンを辞めてラーメン屋を始めたい人、あるいは定年後に退職金を使ってカフェを開きたい人。大宮でやりたいことがある人をサポートしたいと思っています。でも、もちろん全員が成功するわけではありません。店舗経営

には料理の腕前だけでなく、集客し、常に同じ品質を提供し続け、スタッフを管理するスキルが求められま

大宮で始めたい人をサポートする



秩父でのにんにくづくり

す。能力だけではなく、タイミングや運も必要です。個人店でもチェーン店でも、やめてしまう人がけっこう多い。昨今のコロナの状況ではなおさらです。だからこそ、まずはシェアキッチンで試しに始めてみるというのではないのでしょうか。

内田 大宮の魅力や課題をどう考えますか？

星野 魅力のひとつはやはり人口が多いことです。多様な世代がいて市場調査のフィールドにも向いていますから、事業を最初に試す場所としてふさわしいと思います。人口が多いので他の地域も参考にしやすい。それに、東北の玄関口として交通の便も魅力です。一方、集客動線がないことが課題です。大宮駅東口から氷川参道までの動線が断線してしまっています。駅から神社までの道のりに、食べ歩きできるスポットなどがあるといいですね。たしかに駅前賃料が高いのでチェーン店ばかりですが、個人店のほうにもお客さんが足を運んでくれる動線ができれば、街はさらに盛り上がるし、大宮で商売を始めたい人もやりやすくなると思います。

今後の展望

内田 埼玉県全体を見渡したとき、大宮が他の地域と繋がる可能性はありますか？

星野 あると思います。埼玉県には、いまでも人口が増えている東と南のエリアと、人口が減っている北と西のエリアに分かれています。ほとんどの都道府県は、県庁所在地だけ人口が増えて、その他は全体的に下がるのが一般的です。でも埼玉県は人口の減少と増加の地域が方角によって明確に違っていておもしろい。さいたま市の周辺地域と比企郡や秩父郡といった横の連携の可能性があるので、

と思っています。2019年に遊休耕作地や空き家活用の事業を行うため、秩父の横瀬町で株式会社よこぜカンパニーを

設立しました。いま秩父でたまねぎやにんにく、らっきょうを育てています。先日は秩父の山の上に、一定の広さのある庭付きの中古の民家に購入申込を入れたので、山のシェアリング事業を構想中です。じつは、僕は人口が減少する地域で活躍できるタイプだと自認しています。さいたま市はもっと早く人口が減ると踏んでいましたが、生まれるのが20年くらい早かった(笑)

酒屋を改修した「CLOCK KITCHEN」3店舗目



内田 今後の展望を教えてください。

星野 今後10年で遊休耕作地がますます増えていきますから、見沼田んぼのあたりで農業をやりたいと思っています。大きく儲けることはできなくても、体験的な要素を加えたり、IoTを活かすことでチャンスはあると思います。社会課題を解決する意義もありますから、応援してくれる人もきつというでしょう。

先ほども話したように、今度は秩父で空き家や畑や山林を開拓する様子を伝えるYouTuberになろうと思っています。いまの時代はどのようにでもお金を稼ぐことができます。たとえば「IT×コワーキングスペース×地方」のように、複数の要素の掛け合わせでオンリーワ

ンのプレイヤーになればいい。ベンチャー企業や大手企業にはできない、地場の中小企業だからこそできることがあるはず。

要素の掛け合わせでオンリーワンになる

UDCOへの期待

内田 最後に、UDCOに対して期待することをお聞かせください。

星野 UDCOにしかできないことを期待しています。ストリートテラスのような取り組みは、僕たち民間事業者だけではなかなか実現できません。公的な役割も期待される機関として、全体を見通す視点をもったUDCOと僕たち民間事業者が上手に役割分担をしながら、一緒に街を盛り上げていけたらいいなと思います。

UDCO PAPER #009 — ひとを紡ぐ

2020年12月16日発行

編集・発行：UDCO[アーバンデザインセンター大宮]

編集協力：水野雄太

デザイン：刈谷悠三・角田奈央・neucitora

問合せ先：UDCO[アーバンデザインセンター大宮]

330-0802 埼玉県さいたま市大宮区宮町一丁目60番地

大宮ラクーン8Fまちらぼおみやや内

TEL: 048-782-9679 | FAX: 048-782-9680

©2020 UDCO All Rights Reserved